届け 世界の果てまでも

令和４年１１月１８日　　Ｎｏ．４６　　文責　校長　飯久保一男

お手伝いが生むもの

こんなコラムを見つけました。

ある会社が大学卒の新入社員を募集しました。
有名な会社なので，採用の倍率は２０倍を超えました。
その会社の採用担当者は，何段階もの採用面接や各種試験を課して，
選りすぐりの新人を採用した…ハズでした。

ところが数ヵ月後，新人の配属先の一部の管理職が採用担当者に
「なんであんなヤツを採用したんだ」とクレームを言ってきました。
その新人は「気が利かない」「段取りが悪い」「口ばかりで動かない」「感謝しない」とのことでした。
会社で働く者として，何よりも，社会人として使いものにならん，ということでした。
他の会社以上にしっかり選考したつもりだった採用担当者は，悩んでしまいました。
配属先からの評価が高い新人もいるのに，すごく評価の低い新人たちがいたのです。
「こいつらは一体何者だ？」と思い，採用担当者は，その新人たちをもう一度，調査してみました。
そして，わかったことがありました。
それは，
　〇子どものころ，家でお手伝いをしていた新人は，大丈夫
　〇子どものころ，手伝いを全く，もしくはほとんどやっていなかった新人は，ダメ
ということでした。
その後，この会社では，「子どものときのお手伝い経験」を最も重要な採用基準にすると決めました。
お手伝いをしてこなかった人は，どんなに他の点数が高くとも雇わないと決めたのです。

◆◆◆◆◆◆◆　令和２年度校長通信 No.３９「生きてはたらく知識①…子どもたちの体験・経験」の一部の再掲です。

子どもたちに，家庭の中で，役割がありますか。子どもにどこまで仕事を受けもたせるかは意見が分かれるところかもしれませんが，調理を手伝わせたことにより，食べ物の好き嫌いがなくなったとか，親子で一緒の家事をすることで，親子のコミュニケーションが深まったなどの「よい効果」がいくつもあげられています。お手伝いによる効果としては，次のことがあげられています。

〇できることが増えていくことで，自信につながる。
〇自信をもつことで，自立につながる。
〇自分に任せられた仕事があることで，責任感が身に付く。
〇様々な工夫をすることで，自分で考える力につながる。
〇家族に求められ，認められることで自己肯定感につながる。

子どもも忙しいというのが，今の子どもの状況かもしれませんが，テレビを見る時間があるのなら，ゲームをする時間があるのなら，家族の一員としての責任のある仕事を任せることは大切なことだと考えます。

子どもに任せるより親がやってしまった方が早いという考え方もあると聞きます。しかし，そのじれったい時間を待ってやることで，**自信・自立・責任感・自分で考える力・自己肯定感…などにつながるとしたら，させないともったいない**と思うのです。

失敗してもいいのです。失敗から学ぶものです。失敗して落ち込んでいるようでしたら「手伝おうと思ってくれた気持ちがうれしい」とＩメッセージを使って励ましてやってください。忘れてやらなかったというときがあってもいいと思います。自分がやらなかったために，家族に迷惑がかかったという経験だって必要です。子どもが自分で考え，やり抜く機会を与えることが成長の機会となります。自分で「どうすればできるか」と考え，やり遂げることで，達成感や責任感を体験し，よりたくましくなっていくはずです。

◆◆◆◆◆◆◆　本校ホームページ【学校だより】から見ることができます。

お手伝いをすることで，子どもたちは段取りよく動くことを学び，さまざまなことに気を配り，自ら考えて体を動かすことを学びます。そして，感謝する心が身に付いていきます。

お手伝いをすることは，家庭の一員としての自覚をもつこと，親の仕事を助けることになります。このことにより，親への感謝の気持ちが生まれ，道徳心が生まれます。

文部科学省の調査では，

〇お手伝いをよくする子 → 道徳観・正義感が非常に強い　５５％

〇お手伝い全然しない子 → 道徳観・正義感が低い，または非常に低い　４７％

という結果が出ています。お手伝いがもたらす効果は大きいものがあります。

この調査での道徳観・正義感の基準は次の３つでした。

〇家や近所であいさつをすること

〇バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずること

〇友達が悪いことをしていたら，やめさせること

日本で学校が始まった１５０年前までは，子どもは家族の中の貴重な労働力の一人として働いていました。そのころの子どもよりも，今の子どもたちは，はるかに知識は豊富ですし，「読み・書き・そろばん」もできます。しかし，人を思いやる心，やさしさ，温かさなどの感性はどうでしょうか。感性は，体を動かし，体験することで，磨かれていくものです。子どものお手伝いについて考えてみてください。

「農繁休暇」「農繁短縮」ってご存じですか？

櫛形地区は，現在は果樹栽培が盛んですが，果樹栽培に切り替わる前は「養蚕」が中心でした。私の小学生時代は，小笠原小学校の南側には桑畑が広がっていました。養蚕は，カイコが繭をつくるころに大変忙しい時期があります。カイコに桑の葉をたくさん食べさせ，繭をきれいにつくらせなければなりません。

なんと，その農繁期には，学校を休みにしたり半日授業にしたりして，小中学生を家庭に帰したのです。小学生も貴重な労働者として期待されたのです。私の小笠原小時代は記憶がないのですが，櫛形中時代には「農繁休暇」や「農繁短縮」がありました。養蚕だけではなく，稲作が盛んな地域では「田植え休み」「稲刈り休み」もあったようです。学校公認で親が子どもを借り出せる休みだったのです。もちろん，学校が休みになっても遊んでなどいられません。小学生も労働をするための休みだったのです。

４月の「お幸祭」や２月の「十日市」にも，学校が半日になった記憶があります。昭和は遠くなりました…。